

これから夏、洗濯を見直そう！
～洗剤代の節約は水を守ることにつながります～

洗濯機にはいろいろなタイプがあります。「二層式」「縦型水流で洗う全自動式」「ドラム式」などがありますが、特に全自動ができた時にはお洗濯時間が大幅短縮され、みんながもろ手を上げて喜びました。

しかし、今でも「二層式」を家電メーカーでは作り続けています。

その理由は、洗濯機は使う家のメンバー構成や人数、ニーズに合わせて選ぶことが大切だからです。このことはあまり店頭では説明しませんが、実はここが重要なのです。決して流行で選ぶ家電ではないのです。

泥や汗汚れが多い場合は二層式、洗濯物の量も多くそこそこ汚れもある場合には全自動、ほとんど汚れはなく、繊細な繊維の衣類が多いときのドラム式・・・など、使うメンバーの状況を考慮して選ぶものなのです。

また、どうも汚れ落ちが悪いという話を聞きますが、まずきちんと洗剤の分量を量ってください。これをしていない方が大変多いと聞きます。洗濯機の説明書を読んで、水の量を把握し、洗剤の説明書を読んで洗剤量の把握することが大切です。節水型洗濯機やすすぎ回数 1 回の洗剤などがコマーシャルで流れてきますが、水より洗剤の無駄遣いが圧倒的に多いのです。洗剤の使いすぎが水を汚してしまいます。節約しようと思ったら洗剤量の確認!これ、大切なんです。もちろん、適量をお願いします。



目黒区環境ナビゲーター 室井 泰子

インフォメーション

information

お申し込み・お問い合わせは、目黒ネットまで
TEL/FAX 03-3791-8069
meguronet@m2.dion.ne.jp

目黒清掃工場見学

現在建て替え計画が
進んでいます



私たちが毎日出しているゴミはどのように処理されているのでしょうか。

これまで小学校では、授業の一環として清掃工場見学がりましたが、今はなくなりました。ぜひ、お子さんと一緒に見学しませんか。

日 時：8月21日(水) 13:30~15:00
(13:25集合)

集合場所：目黒清掃工場 正面玄関
持 ち 物：筆記用具・カメラ・飲み物・タオル等

複合型介護施設見学会

特別養護老人ホーム洛和ヴィラ南麻布・通所介護洛和デイセンター南麻布 見学会

港区にある、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設などが集まった複合型介護施設を見学します。

日 時：10月2日(水) 10:00~12:00
集合時間：9:40
集合場所：日比谷線・広尾駅 2番出口改札
持 ち 物：筆記用具

※見学人数が決まっているため、申込みは先着順とします。



ひろよしあつこ
広吉敦子の
市民が育てる
東京・未来

おひさまレポート

目黒・生活者ネットワーク

OHISAMA REPORT 2013. 8. 1 No. 84

発行責任者/今井真理 〒152-0003 目黒区碑文谷6-1-19 アネックスST 1階 TEL/FAX 03-3791-8069 http://meguro.seikatsusha.net

「ゆっくりお母さんになって下さい」

～武蔵野大学附属産後ケアセンター桜新町～



宿泊型の施設は全国でもごくわずか。国がモデル事業として打ち出したため、自治体からの見学者も増えているそうです。目黒区の施策に活かすために広吉敦子と生活者ネットワークのメンバーで視察しました。

少子化によるきょうだい数の減少や核家族化、さらには地域での関わりが希薄になってしまったことで、子どもの頃に赤ちゃんと直接触れ合う機会が少なくなりました。また、母親の親世代も、働いていたり高齢だったり、以前より実家の支援が受けにくくなっています。親になっても、赤ちゃんとどう接してよいのかわからないまま、インターネットなどの膨大な情報量の中で、不安ばかりが増していき、最悪の場合には、虐待から子どもの命を奪ってしまうケースもあります。

桜新町にある産後ケアセンターは、「虐待のないまち世田谷」をめざし世田谷区と武蔵野大学の協働事業で、平成20年3月に開設されました。生後4ヶ月までの赤ちゃんとお母さんは、トイレ・シャワー付きの個室を利用します。食事の間は赤ちゃんを預けて、お母さん同士おしゃべりをしながらリラックスした時間を過ごすことができます。これは、センターを出て地域に戻ってからの交流のきっかけ作りになります。授乳や沐浴の方法を助産師さんから教わったり、臨床心理士によるカウンセリングやエステを受けることもできます。出産後すぐに母親になれるわけではありません。試



行錯誤を繰り返しながら母親も成長していきます。ここでは、「ゆっくりお母さんになって下さい」をメッセージとして、助産師によるスタッフが24時間体制で、お母さんが主体的に子育てできるようにサポートしてくれます。ショートステイ、デイケアのプランを選ぶことができますが、14室ある個室は連日満室ということでした。

産後ケアセンターの利用後は、その情報を連絡会や報告書などで地域の子ども家庭支援センターにつなげていきます。母親のケアだけでなく、地域のネットワークづくりの拠点として、このような施設が増えていって欲しいと思いました。

最近はお産後4～5日で退院となるため、自分の健康とその後の赤ちゃんとの生活に不安を感じる人も少なくありません。センターでは、第2の実家のように、身体を休めながら子育てを学んでいます。

谷口久仁子